

# 世界に通用する選手はデータで作る

世界最高峰の舞台であるPGAツアーでは科学的なデータによるティーチングが当たり前になっています。選手、コーチ双方がデータの重要性を理解し、弾道はもちろんのこと、クラブの軌道も含めた詳細なデータによってスイングを管理することによって高いパフォーマンスが可能になるのです。

現在、多くのナショナルチームが科学的データによって選手の強化を行い実績を上げています。しかももちろんデータを取るだけでは不十分。それらを解析し、選手にフィードバックする高いティーチング能力を持つコーチングスタッフが求められているのです。

国内ツアーにおけるデータ解析の第一人者でもあるプロコーチ井上透が主宰するトゥルーゴルフアカデミーは、世界のPGAツアーで使用されている最新の解析機器を備えると共に、トップ選手のティーチングで培った井上透のメソッドを理解し実践できる優れたコーチ陣が揃っています。

選手のレベルが上がれば上がるほど、より高いデータの精度とティーチング技術が求められます。トゥルーゴルフアカデミーでは最新機器を持ち込んだ出張サービスを行っていますので、戦略的な選手の強化にぜひお役立てください。

## 機材紹介



トラックマン

弾道および軌道の詳細なデータをチェック

世界中のプロやコーチが『トラックマン』によるスイングデータを元にレベルアップに取り組んでいます。ボール初速、打ち出し角、スピン量といった弾道のデータだけでなく、クラブの入射角や軌道といったスイングのデータが取れるのがトラックマンの特徴。軌道に対する弾道は適正か、最新のクラブやボールにマッチした数値が出ているのか、など多くの視点から分析することによってスイングの現状を明らかにし、改善を加えることができます。

世界トップ選手が信頼を寄せる  
弾道・スイング解析器

『トラックマン』は弾道道ミサイル迎撃用の『パトリオット』の技術を応用して作られたレーダー式弾道解析器で、世界中のツアープレイヤー、用具メーカー、ナショナルチーム、高校、大学で採用されています。

- 正確な飛距離計測が可能 (誤差50センチ未満、アウトドア使用時)
- クラブ軌道、フェース向き、入射角度などボールの飛び方を決定する要素をデータとして見る事ができる
- 精度の高いクラブフィッティングが可能
- iPhone、iPadなどと同期ができ自分でデータを管理できる
- ショット力を試すテスト (コンバインテスト) や苦手な距離を練習するトレーニングモードなどがある



パットラボ

ストロークの微妙な誤差を明らかにします

解析が必要なのはショットだけではありません。パッティングストロークの際のヘッドの動きを詳細に測定し、そのデータを元に正しいストロークに導くことは最新のティーチングでは常識です。

小さなストロークで打つパッティングはミスがミスとして可視化が難しい部分がありますが、だからこそミクロな分析によって劇的に技術が向上する可能性があります。

超音波測定器を応用した  
プロユースのパッティング分析システム

パッティングストロークの軌道、アドレスやインパクトにおけるフェースの向きや打点の位置、テンポやリズムなど、28項目からなるパラメータを解析し、弱点の発見と改善に結びつけることができます。

- 超音波計測技術を使用した分析トレーニングシステムでパッティングストロークにおける28項目を計測
- 自分の長所・短所を知り、より効果的にトレーニングが可能
- 定期的に測定する事で好調時、不調時の対比が可能
- 精度の高いパターフィッティングが可能

## トラックマン (ゴルフ用具)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



トラックマン 2014年3月15日、世田谷区、弦巻ゴルフ練習場にて撮影。

トラックマン(TrackMan)とは、[2003年](#)、[デンマーク](#)のTRACKMAN社が開発した、[ゴルフ](#)用弾道計測器。もともとは軍事用に使用されていたレーダー式弾道追尾システムであり、[ドップラー・レーダー](#)などで使用される[ドップラー効果](#)を利用して計測をおこなっている。従来のカメラ測定式に比べ、極めて高価である。[USPGAツアー](#)、[欧州PGAツアー](#)での公式計測器となっている。

トラックマンはヘッドスピード、ボール初速、スピン量、それに飛距離などを26の[パラメーター](#)で測定が可能である。トラックマンの需要は、年々増加している。[アメリカ](#)国内でも350を超える施設で認可され、大学のプログラムでも使用されている。[タイガー・ウッズ](#)は、「実際に使用すれば、この[デバイス](#)の信憑性を実感すると思う。ゴルフでは、自分がやっていると感じることを実際に実行できていない場合が多い。もしスイングを改造すれば、僅かながら変化が生じる。それでインパクトの瞬間に何をしているか理解できるようになるし、ボールへのパフォーマンスに還元できるようになる」と述べている。<sup>[1]</sup>。

もともとは、[弾道ミサイル](#)迎撃用の「[パトリオット](#)」の開発で、弾道を解析するために生まれた、[軍事用レーダー](#)にも使われる装置から、開発された製品である。

従来品は初速(ボールスピード)と打ち出し角度から飛距離を予測しているものが多かったが、本器は打ち出しから着弾までを追尾計測しているため、精度が高く<sup>[2]</sup>、飛距離の誤差は100ヤードで30センチ以下である。練習場、アウトドア([ゴルフ場](#))、インドアでの使用が可能。なおボールスピードをクラブスピードで割った数値が、ミート率となる。現在、[R&A](#)公認[ドライバ](#)と[ボール](#)を使用した場合、最大数値が1.49とされている。このミート率を上げる事は、ドライバーショットの飛距離アップに繋がる。

[松山英樹](#)もプライベートで購入している<sup>[3]</sup>。